

令和 6 年度 社会福祉法人「祥健会」事業報告

1 令和 6 年度の介護保険制度への対応

本年度は、介護保険法が施行され、制度開始後第 9 期目の初年度であった。

また、高齢者に関する施策を総合的かつ計画的に推進することや、介護保険事業の円滑な実施を図るために策定されている「薩摩川内市高齢者福祉計画第 9 期介護保険事業計画」のスタートの年度でもあった。

感染症対策の強化や業務継続に向けた取組等の強化については、国の指針に基づき、災害・感染症に対する業務継続計画作成及びそれに基づいた訓練を実施した。有資格を取得していない介護職員については、積極的に資格取得研修を受講させるとともに、全職員にスキルアップ研修や様々な専門研修を受講させ、職員の質の向上につながる取組を行ってきたところである。また、定期的に介護事故予防や虐待防止のための各種委員会を開催してきた。

2 事業としての取組み及び課題について

感染症の予防対策を十分に行いながら、安定した経営、持続可能な運営を目指してきたが、今年度も新型コロナやインフルエンザの感染が苑内に蔓延する時期が数回発生し、入所者、利用者及び介護職員が罹患し、ショートステイの受け入れを自粛した時期も発生した。さらに、一昨年の新型コロナ感染症の入所者への感染拡大、退所の影響が大きく、年度当初は 40 名程度の入所者でスタートし、年間の入所者平均でも 45 名を満たすことができなかった。

詳細の各事業所における事業概要は後述するが、高齢者施設においては、まだまだ脅威にさらされているコロナ感染症であり、油断できない事象である事は変わらない。

次に大きな影響を受けた事柄は、ロシアのウクライナ侵攻を契機に始まったエネルギー価格高騰とそれに伴う急激な物価高騰であった。特に食材の高騰による給食費の大幅な経費増や電気料金の高騰、温暖化による空調施設の利用増を要因とする光熱費の増加は施設運営に大きな影響を与えている。

また、今年度は、大きな修繕や工事等はなかったものの、開設 30 年を経過した施設の経年劣化等による修繕や多くの設備更新を実施したところである。

詳細な事業分析は以下のとおりである。

3 各事業の概要について

- (1) 法人全体では、約 770 万円の収益増となったが、最低賃金の改定による人件費の増（約 830 万円）、物価高騰やエネルギー価格の高騰による事業費の増（約 840 万円）及びグループホームの土地権利金や設備更新による修繕費等による事務費の増（約 600 万円）により、減価償却費を含む当期活動増減差額は、▲ 2, 862 万円となった。（前年度より▲ 1, 323 万円）

(2) 特別養護老人ホーム

- ① 年間目標の稼働率「96%」に対し、「89.5%」で目標には届かなかったが、前年度と比較すると5%増、約1,500万円の収益増となった。
- ② しかしながら先に述べた要因により費用も約1,275万円の増となった。
- ③ 年間利用者数でみると、延べ16,342人で、退所者は18人（死亡退所11人、入院中死亡退所3人、長期入院退所3人、他施設入所1人）で入院された方も多かった。
- ④ 新規の入所希望者も依然として減少傾向であり、複数施設の入所希望やリハビリの継続、家族居住地の都合等の理由により、入所最終段階で断られるケースも多く、空所が長引く要因となった。

(3) ショートステイ

- ① 年間目標の1日利用者「7.2人」に対し、「5.9人」で目標には届かなかった。前年度と比較しても延べ155人の減であった。
- ② 1月までは前年度を上回っていたが、2～3月に発生したコロナ感染により1ヶ月近く受入を見合わせたことが前年度を下回る要因となった。

(4) デイサービス

- ① 年間目標の1日利用者「14人」に対し、「13.3人」で目標には届かなかった。前年度と比較すると平均値では若干上回ったが、総数では減となった。
- ② 台風で2日、大雪で1日臨時休業したことや2月のコロナ感染も利用者が伸び悩んだ要因である。
- ③ ミニデイサービス（元気クラブ）の実績は、1月利用者「250人」目標に対し、「225人」で前年度並みの実績となった。

(5) 在宅介護支援センター

- ① 年間目標「1日100人」をクリアし、当期活動増減も4年連続黒字で実施できた。
- ② 居宅介護サービスとの連携により利用者増につなげることができた。
- ③ 介護支援専門員の確保が年々厳しくなり、令和6年度末に1名退職、令和7年6月末に1名退職予定であり、今後は、職員確保が最大の課題である。

(6) グループホーム

- ① 利用者は、ほぼ満床の状態で経過し、目標も達成、収益も増となったが、土地の借地更新（今回は15年間）の際に発生する権利金や白蟻駆除委託の経費が大きく、3年振りにマイナスの当期活動増減となった。
- ② 恒常化していた介護職員の人手不足は、職員2名の採用で解消したが、一方で人件費の増を伴うこととなった。

(7) 小規模多機能ホーム「さくら荘」

- ① 登録者数1日平均「20人」の目標に対して、実績は「15.3人」と未達成であり、1千万円を超えるマイナスの当期活動増減となった。
- ② 新規登録者は前年度から比較して増やすことはできたが、一方で入院や入所者の登録解除者も急速に増えており厳しい実績となった。
- ③ 人員不足の解消に努めながら、各事業所と密な連携を図り新規利用者の獲得に努める必要がある。

(8) その他

- ① 施設設備の老朽化が進み、昨年度同様、多くの修繕が発生した。今後は各事業所で計画的な設備更新を図る必要がある。
今年度実施した主な修繕は、消防設備取替、照明器具取替（LED化）、食器消毒保管庫取替など厨房の水回り関係、公用車の修繕である。
- ② 介護職員の不足は依然として継続しており、継続雇用や高齢者の雇用を実施している。しかしながら、従業員の高齢化が進み、配置基準を満たさなくなることや過重労働の懸念が残っている。

このように、今年度の法人全体の稼働率及び利用率は、全体としては、収益は伸びたものの、目標には達することができない事業が多かった。

そのため、祥健会全体の事業所において連携強化のうえ、職員の安定的な確保とサービスの質の向上及び各事業の赤字解消に努め、安定的な事業経営を図ることが最大の課題である。

4 主要事項報告

令和6年度も入所者及び利用者の安全、安心を確保するために、さらに各事業の経営の強化、安定を図るため、下記のことを継続的に実施した。

(1) 介護事故防止等に努めた。

- ① 骨折事故2名（グループホーム1名、小規模多機能ホーム1名）、軽微な事故107名（とうごう苑66名、ショートステイ7名、デイサービス5名、グループホーム20名、小規模多機能ホーム9名）であったが、誤嚥事故はゼロ（昨年度は3件）とすることができた。
- ② 今年度も面会や入室を規制し、職員へ徹底した感染防止を周知してきたが、新型コロナウイルス感染症が発生し、入所者、利用者40名（とうごう苑18名、ショートステイ4名、デイサービスセンター6名、グループホーム12名、小規模多機能ホーム0名）が感染した。職員は23名（とうごう苑13名、デイサービス2名、グループホーム7名、小規模多機能ホーム1名）が感染した。
また、インフルエンザに入所者、利用者4名（とうごう苑3名、小規模多機能ホーム1名）、職員5名（とうごう苑4名、在宅介護支援センター1名）が感染した。その他、尿路感染症に入所者29名が、感染した。
- ③ 身体拘束については、緊急やむを得ない場合の3要件を検討したうえで、拘束による点滴を行わなければ、著しく生命に危険を及ぼす可能性が高い事象を1回行っている。

- ④ 虐待と見受けられる案件は無かった。
- ⑤ 褥瘡関係については、延べ16名の方に褥瘡形成してしまい、延べ治療期間は987日となり、人数、日数ともに増加した。要因は、感染症の発生や重度化、それに起因した食事量の低下、機能の低下等が考えられ、ソフト面、ハード面、両面からの対応に課題が残った。
- ⑥ 経管栄養の取扱いと喀痰吸引等の安全性の確保に努め、関連事故は起こらなかった。現在、胃瘻造設者2名、年間の痰吸引実施者数20名で、吸引実施回数は、85回（内介護職員実施数44回）であった。
- ⑦ 利用者等の送迎時の交通事故は無かった。
- ⑧ 服薬のトラブルは、グループホーム2件、小規模多機能ホーム1件あり、服薬者の取り違いと飲み忘れであった。
- ⑨ 各事業者において実施を義務付けられている各種委員会の実施状況は、以下のとおりであり、義務付けされている回数を開催することができ目標を達成した。

ア 介護事故防止委員会	25回
イ 感染症予防委員会	23回
ウ 身体拘束廃止委員会	24回
エ 褥瘡予防委員会	14回
オ 痰吸引委員会	12回
- ⑩ 各種研修会には、延べ99名（とうごう苑36名、デイサービス21名、支援センター16名、グループホーム8名、小規模多機能ホーム18名）を参加させ、知識・技術の習得や職員のスキルアップに努めた。

研修のひとつ「介護福祉士ファーストステップ研修」に参加したとうごう苑の職員が令和6年度受講生のなかで最も優れた成績であったとのことで、最優秀賞を受賞できた。（定時総会の中で表彰式）

(2) 介護の質を充実させることに努力した。

- ① 水分摂取量UPについては、黒糖茶等の摂取により、若干の摂取量の増加はあったが、データ等を把握した計画的な取り組みまではできず、効果は確認できなかった。
- ② 口腔ケアの充実については、実施状況をチェック表に記録させ、その充実を図り続けた。
- ③ 機能訓練、栄養の管理、口腔衛生管理については、介護計画の中で合わせて検討を行い、外部からの指導も取り入れながら支援を行った。
- ④ 認知症高齢者への対応力の向上については、研修会へ参加させ知識の向上に努めた。
- ⑤ 接遇マナーの向上については、内部研修等で、研修を行ったが、入所者への言葉遣い等、ひとり一人が認識することが大切である。

(3) 職員確保に努めた。

期間内の採用者5名、退職者5名とある程度の補充、職員確保はできたが、退職予定の介護支援専門員の確保が課題である。

5 その他

- (1) 苦情・相談への対応（第3者委員会へ報告案件）については、3件（とうごう苑2件、ショートスティ1件）で、持参物の返却ミスやお願いしたことへの対応が遅いなどの職員対応であった。真摯に受け止め、謝罪し、改善を行った。
- (2) 施設周辺の環境整備については、例年どおり、雑務員や事務長が業務の合間や週休日に作業をしてくれた。また、年2回の施設内外の環境整備は、新型コロナウイルス感染症蔓延のリスクが高かったため、今年度も職員だけで実施した。さらに、職員の協力により年1回のフロアワックス掛けを実施した。
- (3) 地域における公益的貢献の取組状況について
 - ① 入所者で年金受給額の低額者へ負担金の減免を実施した。減免額は、107,795円であった。
 - ② 地域の清掃活動へ職員が参加した。
 - ③ 東郷地域福祉合同スポーツ大会に小規模多機能ホームの職員や利用者が参加した。
 - ④ 福祉施設避難所に指定され、今年度は台風時に避難者を受け入れた。

※ 以上、概要報告しますが、詳細は各事業所の事業報告を添付します。